

23、31日に赤煉瓦ライトアート

ライトアートがど 光のアー 23日、キャンドル イルミネーション イルミネーション

組む。また、舞鶴下M0
と八島商店街商業協同組
合は、二十三日午後六時
から同商店街内で八島
キャンドル・イルミネー
ションをする。

赤煉瓦ライトアート
は、文庫山学園側の倉
庫群でイルミネーション
や竹で作ったドームの点
灯などをする。時間は午
後五時～同九時(二三
日は、二十三日から三十一
日まで北吸の赤煉瓦倉庫
の予定)。また期間中、
同倉庫内でライトコン
サートも予定。出展者や
募っている。二十三日、
アトIn舞鶴2005」
を開催する。ライトア
トなど光のアートに取り



みずなぎ学園に使用済みのローソクを贈るボーイスカウト

日はそばやコーヒ、ア
ルコールなどの屋台も營
業する。(☎)62・694
0、松井さん。
八島でのイルミネー
ションは午後六時～同八

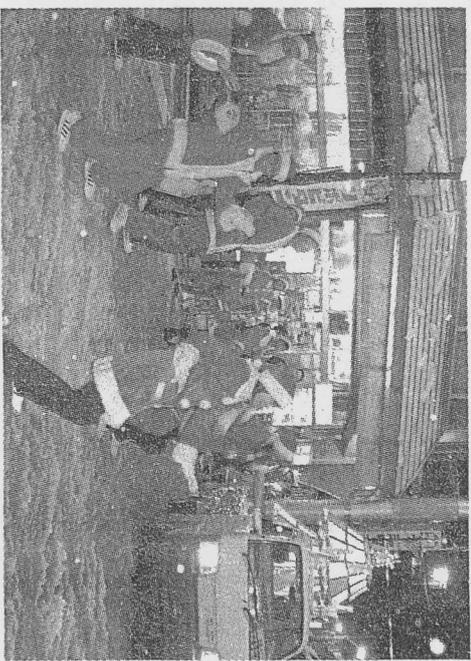
市内の若者有志でつく
るグループ「C.P.」(シー
ピート)「堀江洋一
代表」が企画したイベン
ト「さんだま祭り05」が
十八日、田崎寺の西市民
プラザと周辺商店街で開
催され、クリスマスム
ードを盛り上げた。
回グループは、夏のま
ち遊び「フェスティバル」
の企画・運営スタッフの
中から「冬の舞鶴にも若
者の熱気で彩りあるイベ
ントを」を集まった二十
代、三十代の十五人がメ
ンバー。昨年初めて開催
し、今年で二回目。

イベントの一つのクリ
スマパレードでは、若
者たちが手作りした高さ
二メートルの天使やステンド
グラス風のツリトを軽ト
ラックに積んで、商店街
を行進。電飾されたツ

時半。使用するロソク
は知的障害者授産施設
集めた使用済みロソク
を原料に使ってと贈っ
た。

含唱グループも出演す
る。当日の点火ボラン
ティア、使用済みロソク
を募っている。(☎)62・0369、谷川さん。
征悟君らが十七日、同学

若者の熱気「さんだま祭り」 クリスマスライブ盛り上げ



ストリートダンスを繰り広げる若者たち

り「がきらめくなか、サ
ロックバンドのライブ演
奏やアカペラのコンサー
トも行われたほか、カ
フェやレストランも開店
して、若者らでにぎわっ
た。また市民プラザでは、

苗から始め園芸品づくり

みずなぎ丸田学園 人気の一品、育てて販売



種や挿し木から育てた園芸品

今春、丸田地区にオーブンした障害者の通所授産施設「みずなぎ丸田学園（一種田泰止施設長、定員二十人）」で、利用者たちが花や観葉植物の園芸品づくりに取り組んでいる。事業のメインはパン製造と販売だが、豊かな自然が広がる地域で植物に触れる作業として進めている。人気の一品となっている。

カフェコーナーを併設している。五十種類のパンを製造し、同学園をはじめ、北田辺のみずなぎショップ「ビバ」、寿荘など五施設で定期販売している。一日平均三百、四百個を販売する。自主製品づくりに取り組むと、最近では花の需要があることから、じっくりと育てる作業が利用者に適していることから花の苗づくりを開始。いまではポーチユラカ、ピヨラ、ベンジヤミ

育っていく様子はすごい。仕事は楽しいです」と話している。

このほかにも地元の農産物で製品をと、近くの茶畑から無農薬茶を製造・販売している。来年から野菜の苗づくりもしたいという。日曜・祭日は休み。☎82・9500、同学園。

うと頑張っているセルヒオさんのマル・デル・大学の教授。一緒に来鶴して、同研究に取り組み。来日は三度目です。度は下関や横濱試験所などで研究したという。書道を習いは、一緒に来鶴

⑰ オゾンの不思議

「ハイビスカス染めには驚きましたよ」と、夏休み明けに学生が声をかけてきた。さらに福岡弁で「あんな真っピンク、ありえんし!」「ぜったい合成染料を混ぜとる!」とまくしたてている。花の色は美しいが、その色素「アントシアン」は染料にならないことを、彼は覚えていた。授業の話が少しでも記憶されているとは嬉しい。冷房のない教室で、汗を流しながらの熱弁も甲斐があるというものだ。

身近な草木が鮮やかで堅牢な赤や紫、緑などを出すことは皆無と言って良い。それが草木染の常識だ。ピンク色の布を見せられ、「アロエで染めたものです」と言われても、彼と同様に信じるのができない。ところが「色素の抽出にオゾンを使っています」と聞き、「これはただならぬことかも知れない。一度自分の目で確かめる価値はある…」と、アロエ染の工房を訪れた。

アロエの外観から、染色に有効な色素を連想することはできない。キアや透明でドロドロの果肉が染液に

アロエ染は画期的なものか



ポリテク
カレッジ京都
北澤

4. 17. 10. 18. 市民新聞

みずなぎ丸田学園 十三夜の月見と 音楽鑑賞楽しむ オカリナとキーボード

丸田の障害者通所授産施設「みずなぎ丸田学園」で十四日夜、十三夜の月見をしながら音楽鑑賞を楽しむ催しが開かれた。三十人以上の地元の人たちが参加し、学園の利用者たちが焼いたパンとコーヒーを味わいながら、オカリナとキーボード演奏を楽しんだ。

田畑が広がる環境にある同学園は、月見をしながら自然の恵みを感じ、また地元の人たちとの交流の場を持つと、初めて音楽鑑賞会を企画し



オカリナ演奏する養護学校教諭の四方さん

た。利用者たちは事前にパンを焼いて準備に取り組んだ。

演奏は養護学校教諭の四方正人さんがオカリナ、ピアノ教室教師の大槻早苗さんがキーボードを担当。鹿原のみずなぎ

学園の利用者たちが作ったろうそくで、施設までの道と会場をキャンドルイルミネーションをする中、「北の国から」「少年時代」など十曲を演奏し、来場者はくつろぎながら聴き入った。